

内浦公民館だより

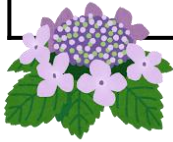
令和8年6月12日発行

(2026) <Vol.153>

# Artfull

# うちうら

[発行]  
 内浦公民館  
 〒919-2351  
 高浜町山中104-4-2  
 TEL.0770-76-2007  
 FAX.0770-76-2008  
 E-mail  
 uchiura\_c.c@town.takahama.lg.jp



内浦公民館講座

ヨガ教室<5回シリーズ>① ②



令和8年5月16日(土) 5回シリーズでヨガ教室が始まりました。講師はアプリーットサンマイル Rindaさん。無理をせず ゆっくり体を伸ばすよう丁寧に指導して頂きました。自分の体と向き合う時間を楽しみましょう。お申込みお待ちしております。

## 自然とつながる四季のセルフケア講座(夏)



令和8年5月24日(日) 夏の季節に合う食材と臓器の為の健康ストレッチを学びました。講師は、マクロビオティック食事アドバイザーの山崎慶子さん。講座では心臓と小腸の関係についてお話を聞いた後、ごぼう茶と梅干の黒焼きの効能を教わりました。体の中から整えていく事が大事ですね。次回もお楽しみに!!

## 麻雀教室



令和8年5月27日(水) 4月から始まった麻雀教室2回目を開催しました。講師は石本祥次さん。麻雀のルールをわかりやすく楽しみながら覚えることができるので初めての方にお勧めです。内浦地区の皆さんはぜひ、内浦ぐるりんバスでお越しください(^^♪

- 開館時間 午前8時30分～午後10時
  - 利用時間 午前9時～午後9時30分 夜間利用が無い場合は午後5時で閉館いたします。
- <7月の休館日> 6日(月)・13日(月)・19日(日)・20日(月)・27日(月)

## 交通安全教室



パネルクイズに挑戦して  
ビンゴを目指しました。



令和8年6月2日(火) 内浦公民館2階多目的ホールで交通安全教室を開催しました。講師は交通安全推進員の山本智子さんと清水妙子さん。R7年度死亡事故の状況と対策についてのお話を聞いた後、2チームに別れ交通安全クイズを行いました。

## 地域ニュース

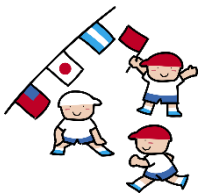


4月18日(土) 高浜町水防訓練がヒロセオートキャンプ場で行われ、大雨洪水警報が発表された想定で、土のう作り、改良型積み工法、土砂災害救助訓練などに取組みました。また高浜町赤十字奉仕団による炊き出し訓練が行われ終了後参加者の皆さんに配布されました。

## 内浦小中学校の5月行事を パチッ



5月19日(火) 内浦小学校5.6年生の皆さんが、藤内修さん(山中区)に教わりながら、田植え体験をされました。手植えの貴重な体験。稲が育っていくのが楽しみですね。



5月30日(土) 鮮やかな青空の下、内浦小中学校体育大会が行われました。元気いっぱいの児童生徒の皆さんを応援しようと、会場の皆さんも盛り上がっていました。

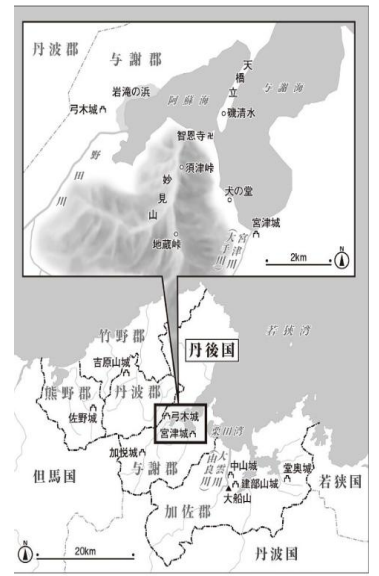


今回は 和田竜 著「最後の一色」です。

「のぼうの城」「忍びの国」「村上海賊の娘」など戦国小説の和田竜さんの12年ぶりの新作です。舞鶴から宮津にかけての丹後地方の覇権をめぐる戦いの主人公は一色五郎。信長にもその存在を認めさせた戦国最後の怪物武者として、乱世を駆け抜けた武勇と非業の最後を和田さんが登場人物の心情や当時の情景を鮮やかに蘇らせてます。



一色五郎は丹後国守護職一色義員の子として生まれます。織田信長の丹後攻略の命を受けた長岡藤孝、忠興親子の侵攻を優れた武勇により幾度も撃退します。織田との対立が続く中、父が中山幸兵衛の裏切りにより、丹後中山城（舞鶴市）において自害に追い込まれます。五郎は家督と守護職を継承し弓木城（与謝野町）に立てこもり抗戦を続けます。弓木城は鎌倉時代に稲富氏が築いた堅牢な城で、五郎は砲術に長けた稲富祐直とともに幾度も長岡勢を撃退します。



攻めあぐねた藤孝は明智光秀の助言により、五郎と和睦し、人質として娘の伊也（いや）を五郎に嫁がせ、一色家と長岡家で丹後国を分割統治することとなり、織田政権下において丹後国守護職として認められることとなります。その後、五郎は京都御馬揃に参加したり、甲州征伐に参陣したりと、織田家配下として信長からの信頼も得ていきます。本能寺において信長が横死を遂げると、五郎は光秀に与することとしますが、藤孝は光秀から離反し、光秀は山崎の戦いで敗死するのです。

忠興は婿呼の儀と称し、妹の婿である五郎を居城の宮津城へ誘い込み謀殺し、同行した五郎の配下の者100名もことごとく打ち取るのです。弓木城に残っていた配下の者たちは降伏し城を明け渡します。その後、叔父の一色義清が一旦、弓木城を奪い返しますが、長岡勢に攻め滅ぼされるのです。これにより丹後国守護職としての200年続いた一色宗家は滅びるのです。

ちなみに高浜町出身の「沢村オハ（大学）」長岡藤孝の家臣として、知略に長けた武将として登場しています。沢村は信長に直訴すること二回におよび主家・辺見家の再興を成し遂げた豪胆さを見込まれ、23歳のとき忠興に拾われますが、些細なことで細川家を出奔し、後年、細川熊本藩の重臣となります。長岡家（細川家）は関ヶ原の合戦時にもなう田辺城の籠城戦を戦い抜き、その功績を認められ、現在にまで続く名家となっていきますが、信長、秀吉、家康と主を変える、その変わり身の早さ、世渡り上手さは、義理人情に反する生き方も評されますが、戦国時代においては家名を残すためには当然のことであったのです。

一色氏は清和源氏・足利氏の一門で、三河国（愛知県）吉良荘一色の出で、室町幕府開府当初は九州探題として筑前の国にありましたが、若狭国・三河国・丹後国などの守護職を世襲し、戦国時代になると敵対関係にあった管領細川氏・若狭武田氏連合軍に勝利し義有は拠点を与謝郡今熊野城（宮津市）に移し、以後は丹後に本拠を構えます。一色一族の支流には徳川家康に仕えた外交僧・以心崇伝や徳川家康に召出されて上総久留里藩主となった一色土屋氏の土屋忠直。江戸時代まで旗本（寄合）や喜連川藩の家老として続いた鎌倉公方の幸手一色氏などがあります。

17歳にて家督を継いだ五郎。六尺を超す巨軀、異様に長い手足、左目だけが極端に大きく、魔物のような容貌。無口にして豪胆、大胆にして繊細、圧倒的不利な戦場でも先陣を切って、両手に刀を帯び馬上から左右の敵を切り捨て、敵を恐怖に陥れる。信長の前でもその威圧に対しても動じることない。妻の伊也には頭が上がりず、純情で真っすぐな優しさを見せ、短気で猛将と云われ玉（細川ガラシャ）を妻に持つ忠興との同年齢の二人の対比に読者は引き込まれます。 罨と気付きながらも臆することなく城内に入り、逆に忠興を討ち果たそうと決意する五郎。刺客たちが潜む座敷で忠興と対峙する緊張の場面は、結果が分かりながらも、先を読み進めることを躊躇してしまいます。最後に伊也が兄の忠興に取った行動は史実であり涙せずにはられません。

## 内浦公民館講座のお知らせ

参加者  
募集中

\*バドミントン講座 講師 今村文彦さん  
6月13日(土) 10:00~12:00



\*古きものリメイク教室 講師 やまぼうしの会  
6月13日(土) 13:30~14:30



\*ヨガ教室 講師 アプリットさんマイル・Rina さん  
<3回目> 6月14日(日) 13:30~14:30  
<4回目> 6月27日(土) 10:00~11:00



\*元気あっぷ生き活き倶楽部  
6月16日(火)  
7月 7日(火)



\*麻雀教室 講師 石本祥次さん  
6月24日(水) 10:45~12:10



\*3B体操教室 講師 藤内幸子さん  
6月26日(金) 14:00~15:00



## 高浜町4公民館合同講座<4回シリーズ> 開催のお知らせ

“種目より先に体の土台をつくる”プロが教える体づくり講座(第1回目)を  
7月12日(日)10時~中央体育館にて開催します。

\* 詳細につきましては、後日チラシ等で御案内いたします。